

自分らしく生きた経営者のあくなき挑戦！卒寿を迎えた「貴人＝雪山会長」への敬慕の

お話し\*\*\***悟性に至る道**\*\*\* はやぶさ2・623号 2023年10月20日（金）

\*もし、あなたが満足した人生をおくり、「笑顔」でいたいならば、  
この方の生き方を知ってください。

%company%

%free1%

%free2%

%name\_sama%

■**LittleBiz 企業**をみざすのであれば

「**理念経営道**」を更に推し進め、

**LittleBiz 企業**・中小企業で働く人々や

経営者やステークホルダーの方々が

「**豊かになり・幸せ**」になってほしいと強く念じて考働してしましよう。

\*「**LittleBiz 企業**」とは私の造語ですが、

小さい企業規模だが

「No.1」の商材を持ち、

地域に貢献し

人々に「**勇気と希望**」をもたらし

次世代に繋いでいく

「**理念経営道**」を実践している企業です。

渋沢栄一翁が提唱する『合本主義＝義利合一』を体得して、

100年企業になる時代がきていますので、

その実現に全身全霊をかけて邁進いたします。

## ■ ■ 自分らしく生きた経営者のあくなき挑戦！

卒寿を迎えた「貴人＝雪山会長」への敬慕のお話し（4回シリーズ）

- ◆ 第1回 雪山家のルーツと徳之島の文化・・・・・・・・・・・・・・・・〔済〕
- ◆ 第2回 作家志望の挫折と人生の転機・・・・・・・・・・・・・・・・〔済〕
- ◆ 第3回 創業のいきさつと、「血の小便がでる」ピンチの体験
- ◆ 第4回 すばらしい伴侶と多くの方に恵まれて「笑顔」の生活

~~~~~序文~~~~~

・「貴人」とは、自らの生き方や様々な困難に出会ったときに「勇気と希望」を与えてくださり、有形無形の支援をもたらしてくれる方です。

多くの場合は年長者の方で、この方を心に浮かべるだけでエネルギーが湧いてきます。

人生は様々な修行の場であり、それらの経験をとおして魂はつながっているのです。

眞に「一期一会」で必然的に貴人と出会うのです。

・極論すれば、出会う前にすら「愛」しているのです。この「愛」は肉感的な愛ではなく、友愛に近い憧れと感謝を伴っており、ご先祖様への感謝とは感じが少し違うのです。

・凡々と生きているように見える方にも、ものすごい修行があり、すばらしい人生があり、それは「不退転の不屈の精神」でやり遂げるのだということをお伝えしたいと念います。

- 今回 4 回のシリーズは、ビジネスから少し離れて、  
企業経営が人間性を高め、豊かな人間関係を築いて多くの方々の支援を受け、  
子々孫々に幸せをもたらし、  
「世のため・人のため」に生き清豊の人生をおくられて「悟性」に至った、  
アルナ会長の雪山氏のお話を敬慕をもっていたします。

~~~~~本文~~~~~

◆第 3 回 創業のいきさつと、「血の小便がでる」ピンチの体験

\*1 回 2 回で雪山家のことや作家志望としての人生行脚をしてきて、

ついに作家志望を断念したことと

奥様との出逢いをお話ししました。

\*今回からは、創業のいきさつと並大抵でない経営者として体験の話を行います。

■パート 1.

• 32 才（1966 年）に中古車センターに勤務して、  
運転免許をとり中古車を買って赤羽から亀戸迄通いました。

この中古車センターへの就職も、

考えようによっては経営者として創業の準備でもあったのです。

\*またまた転職を知人の縁故で紹介されて、

ライターメーカー「S 製作所」に移りましたが、

賃加工的な仕事では生活が楽にならないので、自分たちで起業しないかとの話が持ち上がり、  
T氏より呼びかけもあり創業の決意を固めました。

もちろん奥さんの協力支援がないと創業できませんので相談しましたが、  
「あなたのやりたいことをやりなさい」と賛成してくれたのでした。

★33才（1967年）T氏との共同出資で、  
アルナ工芸として雪山氏が代表に就任し  
スタートした時は3人（雪山夫婦・T氏）だった陣容も  
受注を追いかけているうちに、10余名の従業員数になりました。

\*工場は、埼玉県鳩ヶ谷市里に徳之島出身のU先輩が貸工場を持っていたので、  
お借りして生産を始めたのでした。

・製造品目は、

- 1) 自動車部品の孫請け・・・・・・・・賃加工で旨みがない
- 2) P社からのアルミフレームの受託生産（完成品）。今後の基幹製品として今に繋がっています。

\*P社の受託生産からのノウハウを習得して、アルミ額のオリジナル製品を開発しましたが、  
その販売で痛い目に合いました。

ある販売店に売込みに行ったとき、

いくらでも販売するとのおいしい話をしますので、意気込んで生産したのですが、

結論はキャンセルで、過剰在庫を抱え資金繰りに苦しむことにおちいったのです。

- ・在庫品を裁くために、見込み客へ飛び込み営業をかけました。

必死の生残り策なのです。この必死の売込みが実を結んで在庫は捌けていったのでした。

**「捨てる神あれば、拾う神あり」**を実感した経営者働でした。  
そして多くの人々に支えられていることを、改めて強く感じたのでした。

★この間に、長男が誕生し、奥さんの奮闘は並大抵のことではありませんでした。

自宅（赤羽）からの通勤（鳩ヶ谷）は車だったのですが、

激しい渋滞に悩まされ時間が非常にかかる状態でした。

そんな中で奥さんは、経理処理やプレス作業を担当してくれて、

大いに貢献してくれたのでした。

- ・そして、1968年、創業の翌年に父君が逝去されたのです。

新しい生命や局面が生じる時にはこうしたことが、良く起きます。

（禍福はあざなえる縄のごとく・・・）

母君の時もそうでしたね・・・

- ・創業時の苦労も大変でしたが、経営者としての本当の修行はこれから本格化するのです。

## ■パート2

★1969年（35才）・アルナ工芸㈱に改組。

代表取締役就任して、展望をもって事業を拡大していきましたが、  
1972年＝創業6年目にD社の「不渡り手形」を経験しました。

・不渡り手形の額は、374万円で売掛金債務は、147万円に対し  
債権総額は800万円ありましたが在庫等を含んでおり、  
全額をすぐに現金化することは難しい状態でした。

月の売上が1000万円の時でしたから、ダメージは大きく緊急融資でしのいだのでした。

★更に追い打ちとして、販売先の大型アルミ額商社のk社の倒産にあいました。

仲間のアドバイスで急いで収めた品物を取りに行きましたが、  
会社はもぬけのカラで、何ひとつ回収できませんでした。

・そのk社の債権者会議に出席して、  
当事者が、激しい罵倒を受けながらタダタダ土下座をしている。  
そんな「生き地獄」の様子を見て

「倒産」の恐ろしさを胸に刻むとともに、  
絶対にしてはいけないと決心した次第でした。

\*売上と資金繰りに追われて、与信管理が甘かったと反省して  
以後は注意して取引先の開拓に取り組んだのでした。

■倒産の危機（47才～54才＝7年間）血のにじむ企業努力「血の小便が出る」

★オイルショック後の1979年、創業22年目にして赤字転落し、  
資金を借りるために粉飾の連続で経営の実態が見えなくなり、  
タダタダ資金繰りに没頭する日々になりました。

・そんな経営を続けたため1982年に大幅な赤字に陥りました。  
売上不足と赤字体質が原因でした。

★存続するには、資金をつなぐしかありません。

60人の従業員の生活を守るには、絶対に倒産はできないのです。

・メインバンクは、「手のひら返し」で「貸しはがし」に出ました。  
「雨が降ると傘を取り上げる」動きにでたのです。

金融機関の基本的姿勢は「金貸し業」であり企業の育成や地域貢献ではないのです。

（注）これからの時代は、それでは金融機関も生き残れませんので・・・

・「藁をもつかむ」思いで親戚への無心にも行きましたが、  
生活費の補助とは違い金額も大きく返済の目途も立たないので、貸してくれるはずもなく  
関係が悪くなるばかりでした。

・それで仕入先に、支払手形のジャンプのお願いに行きましたが、  
事情を理解して対応してくれるところと、応じてくれないところがありました。

支払手形は2回決済ができないと銀行取引中止となり、事実上の倒産状態になりますので、  
給与を未払いにしてでも「決済」しなければならず、  
経営者にももの凄いプレッシャーがかかる資金繰りなのです。

(注) 現在では、支払手形は使わないことが、通常化しています。

・更に、街金業者から1000万円を借りました。  
高金利ですが「背に腹は代えられず」依存してしまいました。

当然すぐにはクリアーできるわけがありませんので、  
金利を払って繋いでいったのでした。

街金の担当者が、早くこの状況を脱するようにアドバイスをしてくれて、  
収益力をつけて完済するには7年間もかかったのですが、  
この経験がその後の経営判断に役だったのです。

★そして、この資金繰りの経験中に、夜も眠れず、食事も受け付けずに悩み続けて  
ついには「血の小便が出る」体調になってしまったのです。  
しかし、根が頑健な体にできているので大病にはならず済んだのでした。  
両親とご先祖様に感謝いたします。

・心の安心と希望を持つために「天風会」に入り、  
日曜修練会に参加して「心身統一法」学ぶとともに、  
中村天風師の教えや同じ境遇の経営者仲間と語り、  
滝に打たれたりして心にエネルギーをつぎ込んだのでした。

・倫理法人会にも入り、支部長などの役職を経験して、  
今は長男がその活動を継いでいます。

★そんな中、次男大（たけし＝現アルナ社長）が生まれましたが、  
奥様は奥さんの母親に子育てしていただいて  
経営に全力を尽くして一緒に再建してくれたのです。

■こうした様々の企業経営特に資金繰りから学んだ事は

**「死ぬ気でやれば、何ごとでもできぬことはない」**

この言葉の真の意味が痛感できた。

（注）この心境は悟りに至っていると観じております。

★これ以降は次号でお話しします。

~~~~~captain 平本の所感~~~~~

★どんな経験も全て受け入れて学んでいく  
（修行していく）姿に、敬愛を観じております。

一つひとつの体験が全て経営者になるためのものであったと強く感じるのです。

いつも誠実に、前向きにとらえて行く姿勢が、  
多くの支援者・協力者を呼びよせているのです。

・今どんな苦難に遭遇しようとも、  
いつも「勇気と希望」をもって、「明るい笑顔で生きている」姿が  
「道を開いて」くれているのであり、敬服する由縁であります。

・存在してくれているだけで、いてくれるだけで勇気が湧いてくるのです。  
心正しく「誠実」に生きていれば、生かされ護られていることを実感するのです。

ありがとうございます。

執筆：(株)I&C・HosBiz センター

Captain 平本 靖夫

~~~~~  
■参考図書■Amazon 電子書籍

**合本主義「義利合一」の時代がきている**

<https://www.amazon.co.jp/dp/BOCB9M6D2T>

\*著者：(株)I&C・HosBiz センター

Captain 平本 靖夫

本記事に対するご質問やご感想は下記アドレスまでお願いいたします。

heart\_gaia\_gi@hosbiz.net

~~~~~ 次回予告 ~~~~~

皆様のコメントを励みにして、航海を続けていきますので、重ねてご支援ご鞭撻を  
よろしくをお願いします。

◆次号 第624号 23・10・27（金）は、

◆第4回 すばらしい伴侶と多くの方に恵まれて「笑顔」の生活\*最終回\*

を、お話します。 予告なく変更する場合がありますので、ご承知ください。

■LittleBiz 企業・中小企業で働く人々や、経営者が幸せでなければ、

私たちは「世のため・人のため」になれない。

とクルー一同尽力しております。

■平本靖夫、50年の経営支援家人生の集大成 第1弾！

『合本主義「義利合一」の時代がきている』

Amazon kindle にて発売中！！ 2000円

<https://www.amazon.co.jp/dp/BOCB9M6D2T>

◆『合本主義「義利合一」の時代がきている』は、  
読み物として書いたのではなく、人生をいかに生きるが、ビジネス活動を  
どうすれば良いかの指針であり、「教本」ですので、  
内容をより理解していただくために、ZOOM 講義を、  
10月より開催いたしておりますので、よろしくをお願いします。

### ■ZOOM 講義 & 勉強会のご案内■

\*下記にてご案内します。ご期待ください\*

★購入していただいた方は、ご招待いたします。

## 第4回:11月 2日 (木曜日)・18:30～20:30

### notes

説明:・開講の目的&オリエンテーション 理念経営とは自分も他人も幸せになる

[https://rinenkeieishi.net/archives/data/mls723lpdf\\_1\\_201.pdf](https://rinenkeieishi.net/archives/data/mls723lpdf_1_201.pdf)

これを機会に是非お求めください

最後までお読みいただき感謝いたします。本当にありがとうございます。

では、また次号で元気にお会いしましょう！

---

◆発信日・・・毎週・金曜日

◆発行責任者・・・Captain 平本靖夫

◆編集長・・・岩下一智・(株)I&C・HosBiz センター 執行役員

マーケット・クリエイター(MRC)・・・CST 開発推進責任者

プロフィール

<https://rinenkeieishi.net/corporate/index.html#inoue>

Facebook

<https://www.facebook.com/yasuo.hiramoto>

ご愛読ありがとうございます

著者：(株)I&C・HosBiz センター

Captain 平本靖夫

プロフィールは

<http://rinenkeieishi.net/corporate/index.html#hiramoto>

◆はやぶさ・に関するお問い合わせ・質問は

メールアドレス：kazu\_zohan@hosbiz.net

発行責任者：Captain 平本靖夫、

編集長：岩下一智 MRC